

第44回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

1. 開催状況

日時：2023年2月28日（火） 13:30～15:30

場所：Web会議

出席者：

秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）

安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）

小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 教授）

林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）

松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）

圓尾 雅則 委員（S M B C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）

伊藤 英臣 オブザーバー（東京ガス株式会社 電力事業部 担当部長）

梅本 昌弘 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部長）

紀ノ岡 幸次 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）

佐々木 邦昭 オブザーバー（イーレックス株式会社 経営企画部 副部長）

高垣 恵孝 オブザーバー（送配電網協議会 ネットワーク企画部長）

森 正樹 オブザーバー（電源開発株式会社 経営企画部 ESG・経営調査室長）

荒木 崇 オブザーバー代理（株式会社エネット 経営企画部）

田山 幸彦 オブザーバー代理（東京電力パワーグリッド株式会社 執行役員 系統運用部長）

欠席者：

秋池 玲子 座長（ポストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター & シニア・パートナー）

松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）

議題：

（1）2023年度追加オークションにおける需要曲線と供給力の関係（イメージ）について（対象実需給年度：2024年度）

（2）容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）の再公表について

資料：

【資料1】議事次第

【資料2】委員名簿

【資料3】2023年度追加オークションにおける需要曲線と供給力の関係（イメージ）について（対象実需給年度：2024年度）

【資料4】容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）の再公表について

【別紙1】容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）（2023年2月22日訂正）

2. 議事

(1) 2023年度追加オークションにおける需要曲線と供給力の関係（イメージ）について（対象実需給年度：2024年度）

- 事務局より、資料3に沿って、2023年度追加オークションにおける需要曲線と供給力の関係（イメージ）（対象実需給年度：2024年度）について説明が行われた。

[主な議論]

(小宮山委員)

ご説明、および、今回、事務局においての需要曲線イメージ案作成に感謝する。事業者への有益な情報提供になるものと認識している。関連する追加オークションの NetCONE の設定に関して 1 点発言させていただく。スライド 15、メインオークションと追加オークションの関係としては、実需給年度が同じで、追加オークションよりもメインオークションへの参加を促す仕組みであることが望ましいとの考え方は一定の合理性もある。一方で、追加オークションへ参加可能な電源の対象は、メインオークションで入札して落選した非落札の電源に加え、メインオークション時に供給力として確定していなかった新設等の電源等も入札し得るものと認識している。これらの新設等も含めた電源に対して、追加オークションの NetCONE に最新の経済指標等を反映しないことで、応札するインセンティブが低下する可能性はないか確認したい。

(松平委員)

ご説明、感謝する。私も今の 15 ページの点について意見を発言させていただく。この論点は小宮山委員からもご指摘があった通り、悩ましいものと捉えている。確かに、メインオークションへの参加を促すことは、インセンティブを妨げないという視点でとても重要である。その観点では記載の通り、原則としてメインオークションの NetCONE を上限値とする運用は、ひとつのメッセージとしてあり得ることと認識する。一方で、これを本当に常に維持できるかは、追加オークションを実施する時点における様々な状況によって判断が異なるのではないか。具体的には、どの程度電源が足りない状況であるか、あるいは、諸元の数値であるインフレ率が非常に高くなっているような時点において、果たして同じ NetCONE で十分な電力、電源が集まるのかどうかということも併せて考える必要がある。原則としてメインオークションへの参加を促すという観点で、その数値を上限とするとしつつも、一定の時点で、広域機関が合理的な裁量によって修正できる余地は残しておいたほうが良いと考える。その基準設定の具体的な数値は私自身すぐには思いつかないが、有識者の中でご知見があれば、是非ご教示いただきたい。また、非常に電源が足りずインフレ率が高いという場面においては、追加オークションだけ特別配慮するという考え方だけでなく、最初に応募したメインオークションの落札者の取り扱いをどうするか、むしろそこを考慮することも論理的にはあり得ると考える。特に、インフレ率が非常に高くなる時代になった時に、これまで実際に生じることがなかったためリアルな問題として捉えられていなかったが、インフレ率が恒常的に高い水準が継続する場合には、その客観的な指標に基づくインフレ率を容量市場の中でどう見ていこうかがひとつの論点であり、また、そのような状況が続く場合には、小売への金額負担にも繋がる可能性があるため、慎重な検討が必要と考える一方で、電源確保、あるいは適切なコストをきちんと請求できるようにするという建設側等に寄せられているリスク状況があると思うため、建設、更にもその下請け等も含め、どのようなインフレコストの分担がフェアなのかということも、もうひとつの論点としてあげられると考えている。

(田山オブザーバー代理)

取り纏め、感謝する。2 点ほど意見を発言させていただく。1 点目は資料で説明があったように、調整力及び需給バランス評価等に関する委員会でも検討された必要な供給力の見直しについては、昨今の需給ひっ迫対応の内容となる稀頻度リスクや厳気象対応等の供給信頼度における検討事項について、かなり時間をかけて丁寧に検討された結果だと認識

している。そのため、安定供給をより万全なものとする観点からは、この増加分というのは確実に目標調達量に盛り込んでいただきたいと考える。2 点目は先程から指摘がある 15 ページ、最新の経済指標を反映して算出した NetCONE は 10,120 円/kW を 9,425 円/kW とする考え方について、別の観点から発言させていただく。NetCONE の値を下げるということは、例えば、16 ページのイメージで書いてある、仮に NetCONE の最新指標を反映し、かつ EUE の見直しを反映するケース（青の線表記）で考えると、この指標価格が低下するということは、変曲点の青丸のところは単純に下がり、結果として需要曲線も、左下のほうにスライドすることになってしまうのではないかと考える。そうなる結果として、約定する供給力の量が減ることになるのではないかと理解している。1 点目でも発言した通り、調整力及び需給バランス評価等に関する委員会のほうで整理した内容と整合が取れなくなるとも考えられるため、この辺りはこの図の見方も含めて、引き続き検討をお願いしたい。

（伊藤オブザーバー）

皆様同様に、NetCONE について発言させていただく。メインオークションへの参加を促す仕組みは重要と捉え、15 ページ 4 項目に記載の通り、メインオークションより追加オークションのほうが高い価格であった場合、追加オークションの NetCONE をメインオークションに揃えるということは一案だと認識するが、状況に合わせて制度変更を行なうことは理解しつつも、度重なる制度変更は予見性の低下にも繋がるため、今年度の限定的な措置とするのではなく、恒久的な措置として適用すべきかどうか、しっかり議論していくことが重要なのではないかと考えている。今回、オークションのスケジュールも迫っていることは理解しているので、まずは限定的に実施したとしても、2024 年度の追加オークション実施までには恒久的なものにするのかどうかを決めたほうがいいと考えている。

（秋元副座長）

二人の委員、二人のオブザーバーからご意見いただいたが、事務局から現時点でご回答あればお願いしたい。

（事務局）

ご意見いただき感謝する。NetCONE 設定に関する様々なご意見をいただいたと認識している。小宮山委員からは、メインオークションの NetCONE に据え置くとした場合、新設電源に対しては応札インセンティブがなくなるといったご指摘をいただき、松平委員からは、原則据え置くとした場合でも、様々な状況で変えられる余地を残しておくといったご指摘をいただいたと認識している。また、伊藤オブザーバーからは、度重なる変更は予見性を失うというところで恒久的な対策を検討したほうがよいというご指摘をいただき、田山オブザーバーからは、EUE の見直しとセットであるが、NetCONE が最新の値を反映しなかった場合は NetCONE が下がる影響があるというご指摘をいただいた。これらのご指摘は、仰る通りのところもあるため、いただいたご意見を踏まえて、国と連携して検討していきたい。

（秋元副座長）

他に委員、オブザーバーの皆様いかがか。なかなか悩ましいと思って私も考えているところである。両方あり得るかなという気がしている。何れにしても、この委員会だけでは決め難いことと捉えている。事務局から、国の審議会とも連携しながら検討したいという発言もあった。資源エネルギー庁の委員会で議論するにも、ここでのご意見をお伝えいただくということになるので、ご発言いただけるならば是非お願いしたい。

一委員として発言すると、原則論として、NetCONE については物価上昇を反映すべきと考え、EUE に関しては精緻な分析の下に算定された保守的な数値だという理解をしている。どういう形で全体を容量市場に反映していくか、もしくはこの追加オークションに反映していくかを考えないといけないが、原則論としては反映していくべきであろうと認識している。ただ、

色々な状況もあるため、NetCONE を上げるというところに関してはメインオークションとの関係が気にはなるため、色々な見方ができるかとは考える。また、先程あったご意見のように、あまり裁量権があり過ぎるとどうかといった点、一方で、ガチガチに決め過ぎるのもどうかといった点、両方の考え方もあり得る。

委員、オブザーバーの皆様から追加オークションの需要曲線イメージ案、そして、需要曲線と供給力の関係のイメージについて、ご意見をいただき感謝する。先程からの議論の内容については、皆様からいただいたご意見も踏まえながら、広域機関から国の審議会へ連絡し、連携しながら進めていくことにさせていただきたい。追加オークションについては、4月に開催判断と需要曲線の公表を予定しているということである。事務局においては、参加登録の対応や需要曲線の原案の作成等、引き続き準備を進めていただくよう、宜しく願います。

(2) 容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）の再公表について

○ 事務局より、資料4に沿って、容量市場メインオークション約定結果（対象実需給年度：2026年度）の再公表について説明が行われた。

[主な議論]

(秋元副座長)

私は国の審議会があったので既にそこで報告いただき、発言はしている。広域機関も色々沢山業務を受けているため多忙で本当に大変なのはよく分かる。また、この容量市場も毎年制度改正になっていて、そういう面でミスをし易い状況だということはよく理解している。ただ、非常に重大な誤りであり、影響力が大きいので、やはり資料に記載されている通り、今後こういう事態にならないように、是非しっかりとチェックをしていただきたい。

(林委員)

新しいことや非常に多忙なことも色々分かるのだが、やはり再発防止に向けてしっかり対応することが大切である。広域機関が非常に大きな責任を担っているという自覚は十分にあると認識するが、関係する方にご迷惑をかけないことは大前提だと考えるため、是非しっかりとやっていただきたいということが中立な立場からのお願いである。大事なものは、同じようなミスは繰り返さないということと、しっかり対策を練って、それをしっかり皆さんにご報告することか考えるため、引き続き、宜しく願います。

(秋元副座長)

他にいかがか。宜しいか。私も含め、人間なので必ずミスはあるもので、仕方がないことではあるが、是非ミスしないように努めていただきたい。この議題については以上とさせていただく。今日いただいている議題については全て終了と理解している。皆様、ご意見いただき感謝する。

(事務局)

本件については昨日、国の制度検討作業検会でも報告させていただいている。林委員のご指摘もごもっともと認識しており、しっかりと取り組んでいきたい。また、次回以降の予定についても決まり次第ご連絡させていただきたい。

(秋元副座長)

事務局においては、本日のご意見を踏まえ引き続きオークションの運営に関して宜しく願いたい。
以上で本日の議事は全て終了とする。

以上